

群 教 七	G01 - 03
	平27.257集
	国語 - 中

中学校国語科における 書いて伝え合う力を高める指導の工夫 — 自他協働の作品作りのための付箋紙を用いた交流を通して —

特別研修員 大河原 幹夫

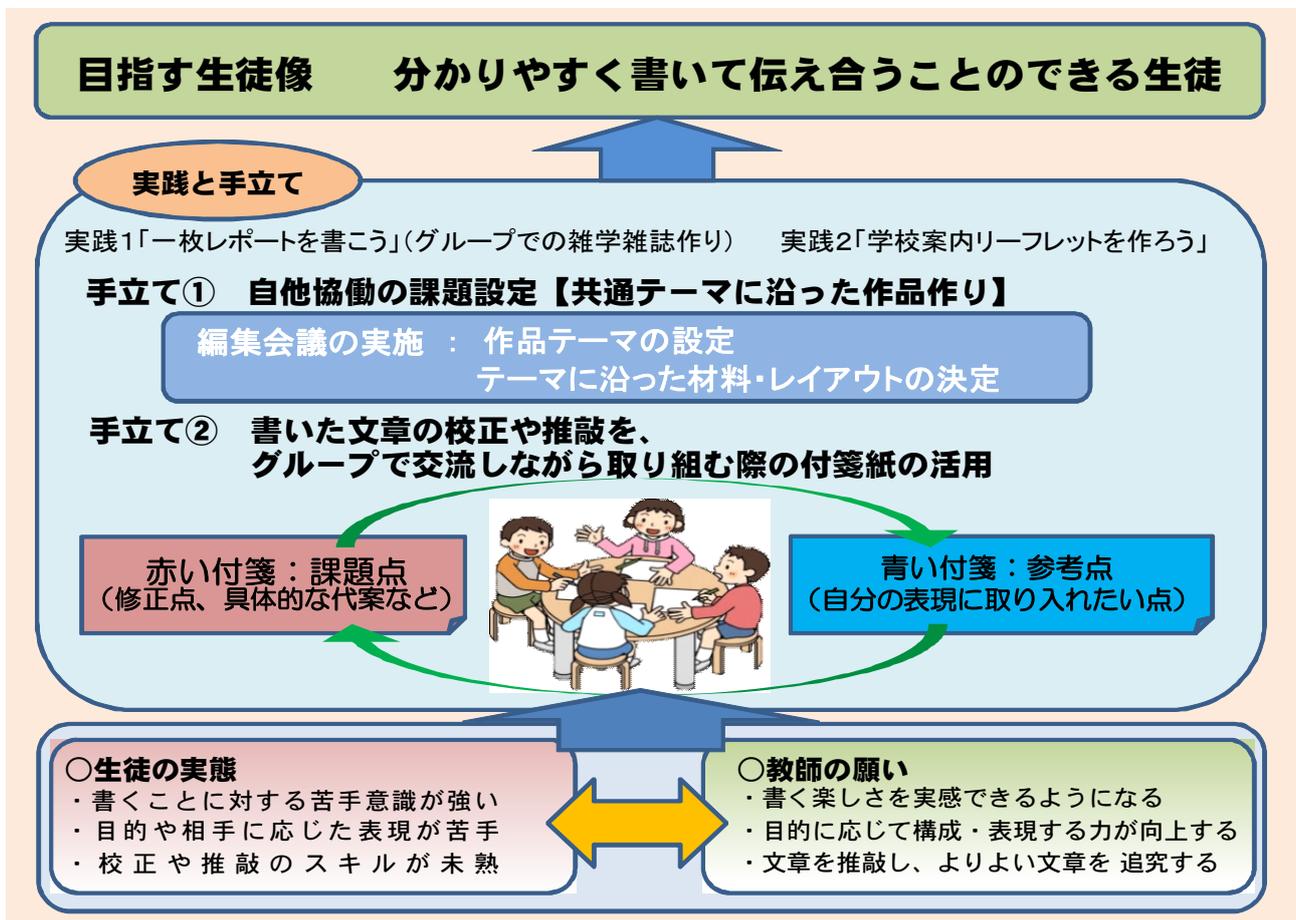
I 研究テーマ設定の理由

はばたく群馬の指導プランに、国語科「表現すること」の課題として「自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること」が挙げられている。これは所属校の課題にも当てはまるものである。生徒の中には、目的や読み手に応じた適切な表現で書いて伝えようとする意欲が低く、書くことに対する苦手意識が先行し、書いた文章を推敲するための知識・技能、主体的に取り組む姿勢が持てない者も見られる。これらを解決するためには、自分たちの身近なことや興味のあることを、相手に分かりやすく伝えることの楽しさや喜びを味わわせることが重要であり、指導事項の「書くこと（1）オ 交流」を通して指導していくことが有効であると考えた。

そこで生徒が個々に考えた表現を一つの作品として主題をもったものにまとめさせる活動を通して、自他の表現の向上につなげさせていく。また、その交流が円滑かつ効果的に行われるようにするために、可動性のある付箋紙を活用していくこととした。自他の表現の比較検討による推敲、交流により一つの作品を編集させていくことで、より書いて伝え合う力の向上を図ることができると考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



- 1 -

2 授業改善に向けた手立て

(1) 自他協働の課題設定

より良い文章表現に向けて主体的に取り組めるように、個々で作成した文章を、出版社に見立てたグループで一つの文章として編集させる。作品としての主題（テーマ）を設定し、それにふさわしい文章表現を志向させていく。

- 【実践授業 1】 個々で興味を持った事柄について調べ、レポートにまとめ、その表記やレイアウト等の統一性をグループで考えさせ「雑学雑誌」を作ることを、単元を貫く言語活動として設定した。
- 【実践授業 2】 グループで「小学6年生のための学校案内リーフレット」を作成することを、単元を貫く言語活動として設定し、グループごとのテーマ（キャッチコピー）に沿いながら個々で作成した文章を、一つのリーフレットとしてまとめさせた。

(2) 付箋紙による交流

他者の表現を参考にしたり、指摘された改善点に着目したりしながら、自他の文章をより良いものに進めていくために、推敲段階で可動性のある付箋紙を使用する。グループ内での意見交換が活発になるよう、校正・推敲の視点を示し、指摘した意図を交流場面で伝え合わせる。

- 【実践授業 1】 レポート作成において、個々で作成したものをグループ内で読み合い、作品として統一感があるか、事実と意見の整合性が明確であるか伝わりにくい表現がないかなどを付箋紙を用いて指摘し合わせた。
- 【実践授業 2】 リーフレット作成において、その内容を四つのテーマから構成し、グループ内で分担して取り組ませた。リーフレット全体で表現するテーマは、自校のよさについてであることを共通理解させ、その内容にふさわしいキャッチコピーを設定させた。実践授業1での学習を基に、より魅力的でグループで掲げたキャッチコピーに沿う内容となっているか、伝わりやすい表現であるかという視点で、付箋を用いて交流しながら推敲し合わせた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- グループで一つの作品を作っていくという自他協働の課題設定を取り入れたことで、自身の文章はもちろん、仲間の文章においても、魅力的なより良い文章にしようという必然性を感じながら校正や推敲に取り組むことができた。また、推敲後の文章表現に、伝わりやすくするための具体的な工夫が見られるようになった。
- 付箋紙を用いて文章の推敲をしたことにより、下位層の生徒も、他者の文章に対して、何かしらの課題を指摘したり、感想や意見を述べたりすることができた。授業実践後のアンケートによると、実践授業1では94%の生徒が、実践授業2では100%の生徒が付箋紙に記入したことをもとに交流できたと回答した。また、付箋紙に指摘された内容が作品の完成に向けて参考になったと答えた生徒は、実践授業1・2ともに94%であった。

2 課題

- 魅力あるより良い文章とは何かを生徒自身に考えさせる必要がある。生徒間の視点を明確にするために、多様な文章モデルを比較検討させ、それらから、何が魅力的で、何が自身の文章表現に不足しているのか等を考えさせていく。
- 付箋紙を用いて推敲し合わせることにより、良い意見や提案が出されていたが、それらを基に話し合う交流の時間をさらに確保し、一層の思考・判断を経た表現による作品へと完成度を高めさせたい。本研究での手立てを、今後も適切に導入できるよう単元開発していく。

<授業実践>

実践 1

- 1 単元名 表現力を高め、的確に表そう 「雑学雑誌をつくろう」
教材名 「一枚レポートを書こう」(第1学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本単元は「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の学習を通して自分で考えをまとめ、的確に表す力を育てる単元である。聞き手のことを考えて、分かりやすく魅力的なスピーチをしたり、伝えたいことを端的に表現したレポートを作成したりする。

本教材では、身近な日常生活の中にある事象の中で興味あることや疑問に思っていることを調べ、一枚のレポートにまとめ、さらにグループで協働しながら一冊の雑学雑誌にすることを、単元を貫く言語活動として設定している。仲間との協働により作品作りを進めていくことは、生徒たちの主体的な学習活動を促し、互いの文章表現力を高めていけるものである。

また、本時は全5時間中の3時間目である。書いた下書きシートを推敲する過程であり、グループ(出版社)を形成し、互いの文章を読み合いながら、より良い文章となるように改善点を伝え合ったり、自身の文章表現の参考となるものを吸収したりする時間とした。

3 授業の実際

前時までに書き上げた下書きシートを、グループ(出版社)内で回覧し、付箋紙を用いて推敲し合わせた。その際、推敲し合う観点を明確にしてから取り組ませた。生徒に示した推敲する際の観点は以下のとおりとした。

【推敲の観点】

- ・『雑学雑誌』としての形式や内容の統一感
- ・文末が揃っているか(敬体と常体の混在がないか)(です・ます→だ・である)
- ・引用の方法は正しいか(「」などの使用)
- ・指示語や接続する語の適切に使用されているか(「以上のことから」「つまり」「よって」など)
- ・相手にとって分かりやすい文章になっているか(構成や表現内容)

推敲中の生徒たちの声



- ・この表現は難しいからもっと分かりやすくできるといいと思うな。
- ・事実に対する意見に矛盾があるような気がする。
- ・この書き出しはおもしろいな。読み進めてみたくなる。自分も工夫してみよう。
- ・図やグラフが入っていて文章が理解しやすく書けているぞ。
- ・文末が揃っていないところや誤字・脱字があるな。

図1 付箋紙による交流の様子

生徒は、決められた時間(一つの下書きシートを推敲する時間は6分程度)で、グループ内で原稿をローテーションさせる。観点に沿って、仲間の原稿に付箋紙によるアドバイス等を貼って推敲する(図1)。その際、互いの文章がより良いものとなるように、改善点がより多く指摘し合えると良いことを伝えておく。次頁図2のように、改善点は赤、良い表現には青の付箋紙を用いさせたが、下位の生徒にとって改善点を指摘することには難しさがある。その場合には、青い付箋紙のみで良いこととした。また、この後の活動となる、書かれた付箋紙の内容についてのグループでの交流の円滑化と、教師の評価資料とするために、赤青いずれの付箋紙にも記入者の名前を書かせるようにした(次頁図3)。

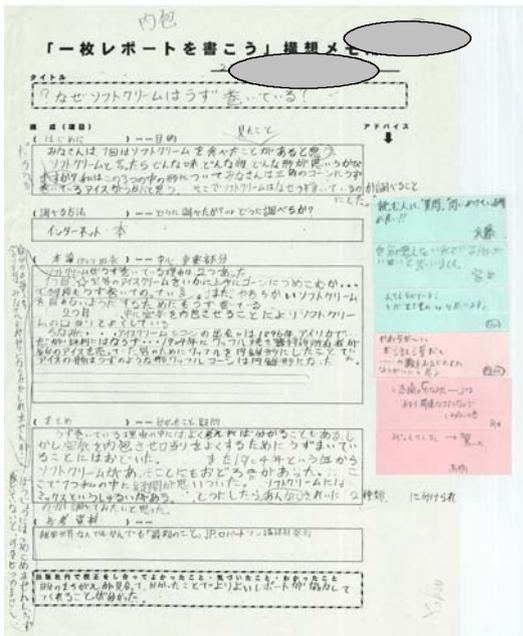


図2 付箋紙の貼られた下書きシート



図3 交流の様子

貼られた付箋紙を見ながら、客観的な視点で自分の文章を振り返る。内容や表現の改善方法について分からないことや悩んでいることなどを付箋紙の記入者に尋ね、グループで検討する。

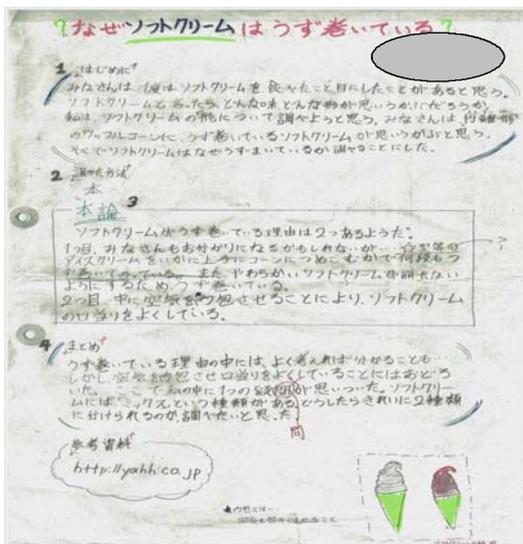


図4 『雑学雑誌』の1ページ

※ 修正箇所例

付箋紙（赤）によって指摘された内容

- ① 「やわらか〜い」が話し言葉
- ② …を使うなら数をそろえた方がよい
- ③ 本論の「ちなみに〜」からはいらないと思う
- ④ 「びっくりした」というところを直す

- ① やわらか〜いソフトクリーム→やわらかい
- ② …の必要はないと判断し削除
- ③ ちなみに…、ソフトクリームとコーンの出会いは、1869年アメリカで……だが（中略）ワッフルコーンの形は円錐形になった。→話題の内容とずれるので削除した。
- ④ びっくりした→おどろいた

4 考察

- 「雑学雑誌を作ろう」という自他協働の作品作りを単元を貫く言語活動として設定したことで、グループで取り組む構成の段階では、自他の文章をより良いものにしていこうという意識のもと、推敲する観点に注意しながら、適切な表現に改善することができた（図4）。
- 付箋紙を用いて文章の推敲をしたことにより、下位層の生徒も、他者の文章に対して課題を指摘できなくても、参考にしたい点を挙げたり、感想や意見を述べたりすることができていた。
- 学習全体を振り返るためアンケートを採ったところ、92%の生徒がレポートを書く学習に楽しさや達成感を得られたことが分かった。
- 生徒たちの推敲の観点として、構成や内容について追究したものが少なかった。構成に関しては、教師側で構成のフォーマットを示したため、効果的な構成にしようという生徒が少なくなってしまうからだと考えられる。また、内容については、レポートの本論部分の大半がインターネットからの引用文で、自らの考えを記述する要素が少なかった。その2点において改善するとともに課題に対して適切な推敲の観点を生徒自身が考える活動が必要である。

実践2

- 1 単元名 相手を意識して伝えよう 「学校案内リーフレットを作ろう」
教材名 「学校案内リーフレットを作ろう」(第1学年・2学期)

2 本単元及び本時について

本単元では、小学6年生に学校案内リーフレットを制作するという単元を貫く言語活動を通して、相手意識や目的意識を持って書く力を身に付けることを目標としている。書いた文章を読み返し、読みやすく伝わりやすい文章にするためには、伝えたい事柄や考えを明確にし、内容を吟味して適切な表現で伝えるという、読み手に対しての理解や興味・関心への配慮が求められる。「学校案内リーフレット」の読み手は来年度中学校に入学する小学6年生である。学習者である中学1年生にとっては、自分自身の経験に基づいて、その興味や関心をイメージしやすい。そのため、リーフレットに掲載する記事のアイデアについて話し合う第1時から、完成したリーフレットを読み合って学習を振り返る第5時まで、制作目的と読み手の設定について繰り返し想起させることで、作品としての完成度を高めようとする意欲を喚起できる。

本時の学習は全5時間中の3時間目であり、互いの下書きについて効果的に付箋紙を使いながら意見を述べ合い、推敲し合う過程である。仲間の多くの文章に触れ、刺激を受けたり、一つの作品として、互いの文章をより良くしていったりすることで、文章での表現力や書くことへの意識が高められる。

3 授業の実際

授業実践1では生徒に課した推敲すべき観点への意識の持たせ方が弱く、「雑学雑誌」という作品としてのまとまりまで練り上げるという活動が活性化されなかった。そこで、授業実践2では「推敲の観点」が、より内容の改善・表現の工夫へつながるようにした。

表1 推敲すべき観点

④ 誤字・脱字がない	<	<p>① 学校のよさと、その根拠が、具体的に書かれている</p> <p>② 工夫した表現で魅力的な文章である</p> <p>③ 6年生にとって、* 分かりやすい表現である</p> <p>* 小学生にとって難解でない</p> <p>* 生活面で理解できない用語に解説をつけるなどする</p>
------------	---	--

推敲する観点を表1のように三つにまとめ、示した。各グループには、学校のよさを伝えるための、テーマとなる『キャッチコピー』を考えさせた。

『キャッチコピー』は、学校のよさを端的に表す言葉とし、「活気あふれる〇〇中！」などとした。各グループで決めたキャッチコピーに集約される学校のよさを、的確に表す内容になっているかを検討させた。表現の工夫や読み手を意識した語句の選択など、単なる誤字や脱字の指摘のみに終始しないことを確認し、交流させた(図5)。



図5 推敲のための下書きシートの交流

推敲中の生徒の声

- ・テーマに沿って良く書けていて誤字・脱字くらいしか見付けられない。
- ・小学6年生には部活の「遠征」の意味が分かるかな。詳しい説明が必要ではないかな。
- ・「トラブルがあったときは」という表現は、6年生が不安にならないかな。削除した方が良いのでは。
- ・三行の良いいところをもう少し具体的に書けないかな。

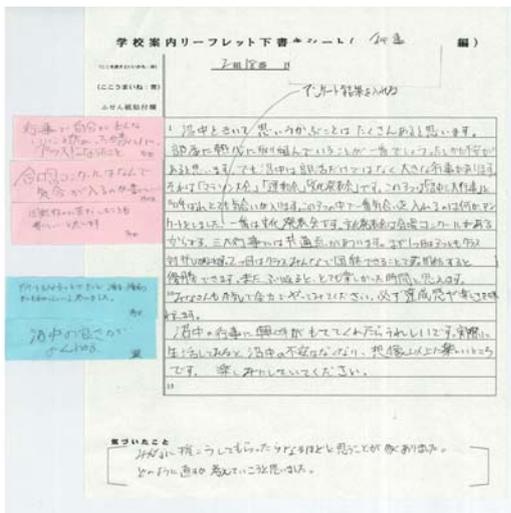


図6 付箋紙(赤：改善点 青：良い点)

グループを抽出して観察したところ、3名中2名が赤い付箋紙に具体的に記入できたものの、1名はなかなか付箋に記入して貼ることができなかつた。感想でも良いので書くように促したところ、青い付箋紙(参考にした点)に書き込むことができた。このように付箋紙を使用した推敲の交流は、下位の生徒であっても、何らかの形で参加することができる場となることが分かった(図6)。

表2 「行事」についての交流から指摘された内容

- ①小学生に語りかけるような出だしにしたら良いのではないかな。
- ②合唱コンクールはなぜ気合いが入るのか、具体的に書くと良い。
- ③団結するのに苦労したことも書いた方が良いのではないかな。
- ④行事から学んだことを書こう。

- ①アンケート結果を入れることで、もっと気合いを入れたい行事の2番目、3番目のことが分かると思う。
- ②この言葉で学校のよさがよく分かる。

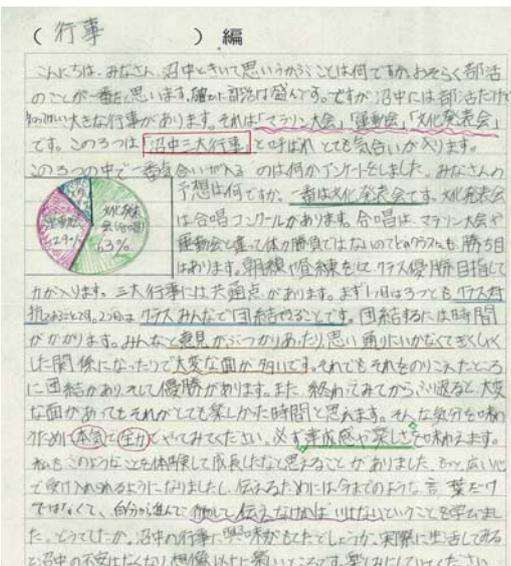


図7 推敲から清書へ

表3 【表2、赤い付箋の②】を受けた推敲の様子

下書き

三つの行事の中で一番気合いを入れるのは何か、アンケートをとりました。一番は文化発表会です。合唱コンクールがあるからです。三大行事には共通点があります(以下省略)。

清書

三つの行事の中で一番気合いを入れるのは何かアンケートをとりました。一番は文化発表会です。合唱コンクールがあるからです。合唱はマラソン大会や運動会と違い体力勝負ではないので誰にでも勝ち目はあります。朝練や昼練をして、クラスで団結して優勝を目指すため力が入ります。三大行事には共通点があります。

(以下省略)

[表記上の工夫として、色分けしたグラフと関わる本文に、同色で着色していた(図7)。]

4 考察

- 授業実践1で取り組んだより良い文章にするための表現方法の学習を生かしつつ、推敲すべき観点を内容と表現の工夫に関するものに絞り、意識させるようにした。そのことにより、生徒たちは読み手を意識し、より内容が伝わりやすく、興味を持ってもらえる内容になるように、と表現を工夫するようになった。
- 授業後にも、付された付箋紙について仲間に質問したり、自身の書いた文章の内容の意図を説明したりしている様子が見られた。推敲場面における付箋紙の使用は、相互に伝え合う活動を活性化することに有効であった。
- 書くことに抵抗感をもっていた生徒が、4人で一つのリーフレットを作ることで仲間と協力しながらより良い文章を書こうとしていた。事後、達成感が味わえた様子が見て取れた。
- 付箋紙での交流活動直後に、その付箋紙の内容について話し合う時間を十分に取ると良かった。この時間が確保が、更なる文章表現に対する思考の深まりにつながると考えられる。